

# Ⅱ 暮らしの向上

## 9 景観・環境の保全と創造

### 2 きれいでくらしやすい生活環境の創造

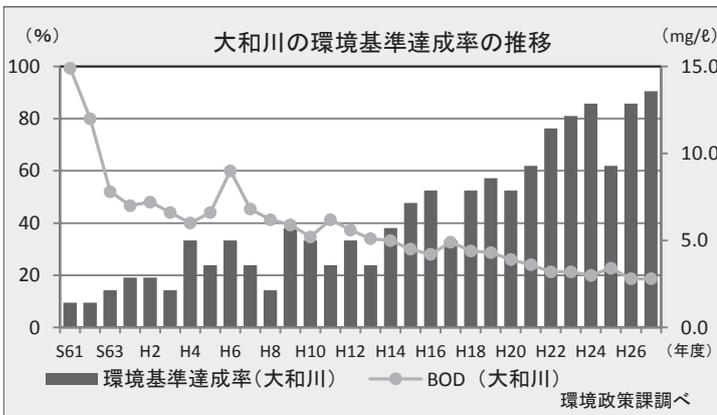
主担当部局(長)名  
景観・環境局長 中 幸司

#### 目指す姿

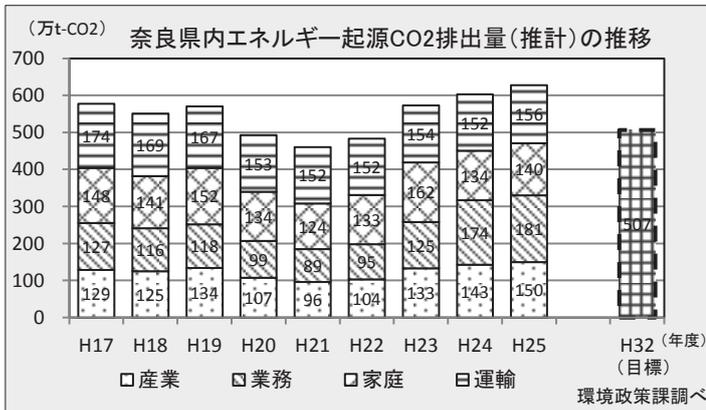
奈良のきれいな”まちなみ”と”環境”を守り・創ることを通して、県民が愛着と誇りを持つことのできる美しいまちづくりを目指します。

関係部局(長)名: 地域振興部長 村田 崇、産業・雇用振興部長 森田 康文、農林部長 福谷 健夫、県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、水道局長 西川 浩至、教育長 吉田 育弘

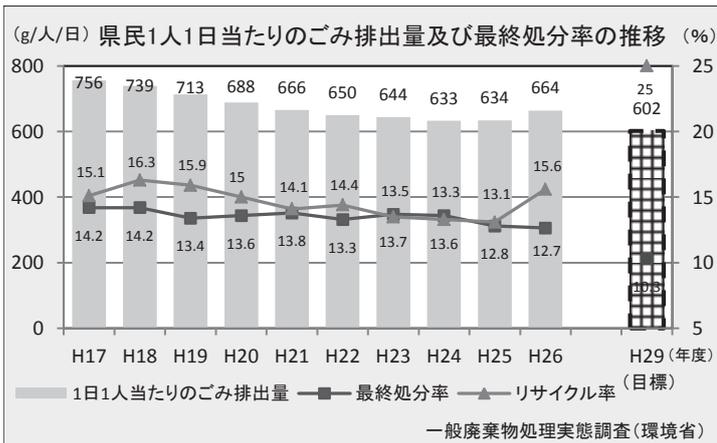
### 1. 政策目標達成に向けた進捗状況



目標	清流を保全し、復活させます。 大和川:環境基準(BOD値)を達成させます。 (H25年度環境基準達成率:62%)
取組	下水道整備及び合併処理浄化槽設置支援等を行いました。
成果	大和川の環境基準達成率は、下水道整備等が進捗したことにより、約90%(H27年度)となり、改善傾向にあります。

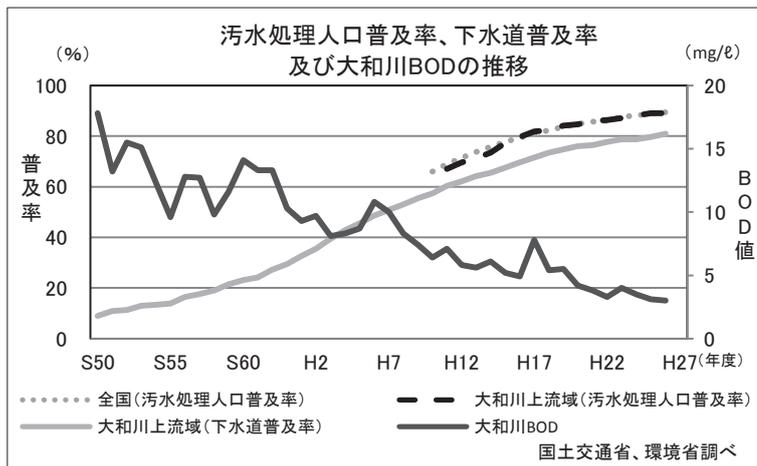


目標	CO2排出量を平成32年度までに平成17年度比で12.3%削減します。(H24年度:H17年度比4.4%増)
取組	省エネ・節電に係る普及・啓発とともに、蓄電池・家庭用燃料電池(エネファーム)等の設備設置支援を行いました。
成果	本県におけるエネルギー起源CO2排出量は、東日本大震災以降、増加傾向にあるものの、創エネ・省エネの取組が進んでいます。



目標	廃棄物の排出量削減とリサイクルを推進し、家庭ごみ排出量を平成29年度までに602g/人・日にします。(H24年度:633g/人・日) その結果、最終処分率を平成29年度までに10.3%にします。(H24年度:13.6%)
取組	環境にやさしい買い物キャンペーン(レジ袋削減)を実施する等の意識醸成に努めました。
成果	県民1人1日当たりのごみ排出量は、集団回収量の把握により平成26年度は増加したものの、過去10年間は減少傾向にあります。

## 2. 現状分析



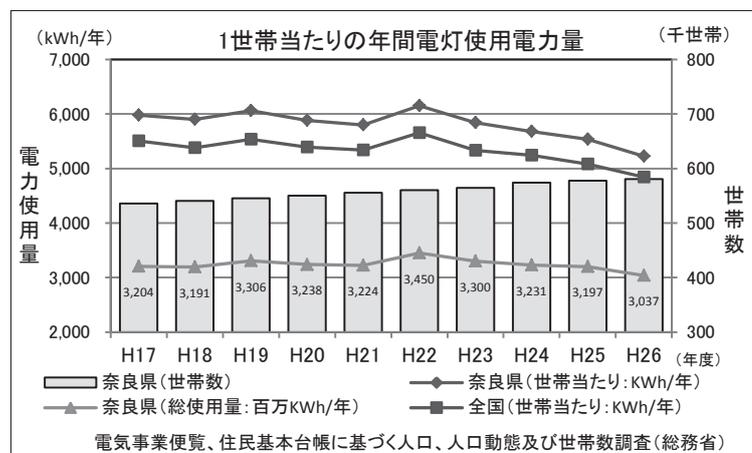
大和川の水質は、汚水処理人口普及率の上昇とともに改善が見られます。汚水処理人口普及率は、平成26年度末で89.1%(大和川上流流域)で、全国平均89.5%と同程度で推移しています。

※汚水処理人口普及率

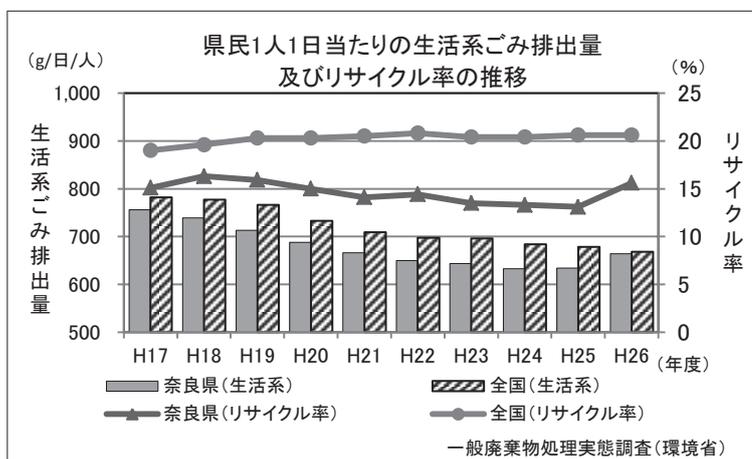
= (下水道人口+合併浄化槽人口+コミュニティ・プラント人口+農業集落排水人口)/全人口

※コミュニティ・プラント: 市町村が設置・管理する小規模な汚水処理施設

※BOD: 水の汚染を表す指標の1つ。数値が高いほど汚濁度高。



平成26年度の県内総電灯使用電力量は、世帯数が増加したものの、節電等の取組により1世帯当たりの電灯使用電力量が減少したことから、平成25年度より約5.6%削減しました。全国平均と比較して約8%多くなっていますが、平成25年度よりその差は縮まってきています。



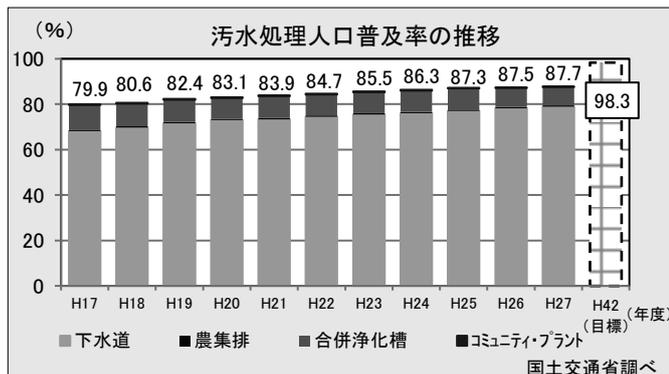
県民1人1日当たりの生活系ごみの排出量は、平成26年度は664gで、前年度から4.7%増加したものの、過去10年間では12.2%の減少傾向にあり、全国平均と同程度となっています。一方、リサイクル率は、平成25年度に比べ約2.5%上昇しています。

### 3. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 きれいな生活環境を創造します。

主担当課(長)名 環境政策課長 柳原 章二

戦略目標	①生活環境の改善及び公共用水域の水質保全を目指し、平成42年度までに汚水処理人口普及率を98.3%にします。(H25年度:87.3%) ②平成27年度の再生可能エネルギーの設備容量を平成22年度比3.8倍を目指します。(H22年度:57,481kW) ③節電により、平成22年度の電力使用量から5%削減した状態を平成27年度まで維持します。 ④平成29年度までに県民1人1日当たりの家庭ごみ排出量を48g削減します。(H22年度:650g/人・日比) ⑤平成27年度までに県民の「生物多様性」の認知度を80%にします。(H23年度:45%)
------	--



取組	下水道整備及び合併処理浄化槽の整備を促進しました。(①)
成果	下水道整備及び合併処理浄化槽設置促進等により、汚水処理人口普及率は平成27年度末で87.7%となり、平成26年度より0.2ポイント上昇し、目標達成に向け、順調に進捗しています。

主な取組指標等	平成25年度	平成26年度	平成27年度	担当課名
河川の水質の保持・水量の確保(①)				
単独処理浄化槽数(基)	74,822 ↗	74,217 ↗	72,575 ↗	環境政策課
水辺環境の整備と里川の再生(①)				
河川美化愛護団体支援事業による河川清掃実施団体数(団体)	100 ↗	101 ↗	104 ↗	河川課
道路沿道における草刈りや清掃活動に参加する地域ボランティア団体数(団体)	97 ↗	98 ↗	97 ↘	道路管理課
CO2排出量の削減(②,③)				
県営水道における太陽光発電及び小水力発電の年間発電能力(万kWh/年)	304 →	304 →	304 →	水道局
再生可能エネルギー導入設備容量(kW)	139,868 ↗	199,921 ↗	277,421 ↗	エネルギー政策課
廃棄物の排出抑制・循環的利用の促進(④)				
県と協定を締結した農業者、法人もしくは店舗数(件)[累計]	37 →	38 ↗	44 ↗	農業水産振興課
廃棄物の適正処理の推進、不法投棄・不適正処理の撲滅(④)				
不法投棄等に係る通報件数(件)	105 ↘	77 ↘	94 ↗	廃棄物対策課
生物多様性なら戦略の推進(⑤)				
「なら生物多様性保全ネットワーク」の参加団体数(団体)[累計]	72 →	79 ↗	81 ↗	景観・自然環境課

#### これまでの成果

- ・奈良県内の河川水質は改善傾向にあります。(全58地点BOD平均:H18年度2.2mg/ℓ→H27年度1.6mg/ℓ)  
(①)
- ・節電効果や再生可能エネルギーの普及により、平成26年度の電灯使用電力量は、平成22年度比で約12%削減しました。(③)
- ・二酸化炭素削減等のため、森林環境税を活用した施業放置林の強度間伐等について、平成27年度までに8,202haを実施しました。(②,③)

4. 平成29年度に向けた課題の明確化

<p><b>&lt;政策目標達成に向けた進捗状況&gt;</b>          ・大和川の環境基準達成率は、下水道整備等が進捗したことにより、約90%(H27年度)となり、改善傾向にあります。          ・本県におけるエネルギー起源CO2排出量は、東日本大震災以降、増加傾向にあるものの、創エネ・省エネの取組が進んでいます。          ・県民1人1日当たりのごみ排出量は、集団回収量の把握により平成26年度は増加したものの、過去10年間では減少傾向にあります。</p>	<p><b>&lt;奈良県の持っている強み&gt;</b>  <b>【CO2排出削減・CO2吸収源整備】</b>          1 再生可能エネルギー(太陽光パネル設置基数等)の普及拡大          2 CO2吸収源となる豊富な森林資源の保有  <b>【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】</b>          3 有機野菜等の消費者ニーズ(約8割の人が有機農業、エコファーマーによる農産物を買いたいと回答：H25.10奈良まほろば市アンケート調査)  <b>【生物多様性なら戦略の推進】</b>          4 生物多様性なら戦略を策定          5 「なら生物多様性保全ネットワーク」を設立</p>	<p><b>&lt;奈良県の抱えている弱み&gt;</b>  <b>【河川の水質保持・水量確保】</b>          6 大和川の支川別に見ると水質改善が進んでない河川が存在          7 汚水処理が進みにくい山間部が多い  <b>【水辺環境の整備と里川の再生】</b>          8 河川の印象について、約6割の人が「やや悪い」又は「悪い」と回答：H26県民webアンケート  <b>【CO2排出削減・CO2吸収源整備】</b>          9 家庭部門におけるCO2排出割合が高い          10 森林整備の担い手不足  <b>【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】</b>          11 事業系一般廃棄物(オフィス・飲食店等から排出されるごみ)の排出量が多い          12 ごみのリサイクル率が低い</p>
--	---	---

<p><b>&lt;奈良県への追い風&gt;</b>  <b>【CO2排出削減・CO2吸収源整備】</b>          a 再生エネルギー法成立に伴う新技術の確立及び新規企業参入の促進          b 再生可能エネルギー固定買取制度の制定・定着          c 原子力発電所事故及びそれに伴う電力不足問題の発生により、節電に対する意識及び自然エネルギーに対する関心の高まり          d 木質バイオマスの利活用に対する関心の高まり(間伐、木材利用促進により、森林の適正な整備と機能保全を図る)  <b>【全般】</b>          e ごみ問題、水質汚濁に関心が高い(H26県民webアンケートより)</p>	<p><b>&lt;強みで追い風を活かす課題&gt;</b>  <b>【CO2排出削減】</b>  <b>【重要課題】</b>太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用(1,a,b,c)  <b>【重要課題】</b>小水力発電等の導入・利用(1,b,c)  <b>【重要課題】</b>県営水道の施設を利用した新エネルギー発電(小水力発電)の更なる導入(1,b,c)  <b>【CO2吸収源整備】</b>          ・低コスト集約化施策による搬出間伐の推進(2,d)          ・公共建築物の木造化及び内装等木質化の推進(2,d)          ・住宅での県産材利用(2,d)  <b>【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】</b>          ・有機野菜等の生産と消費の拡大(3,e)</p>	<p><b>&lt;弱みを踏まえ追い風を活かす課題&gt;</b>  <b>【河川の水質保持・水量確保】</b>  <b>【重要課題】</b>家庭での生活排水対策(6,7,e)  <b>【水辺環境の整備と里川の再生】</b>  <b>【重要課題】</b>地域社会における河川美化活動(8,e)  <b>【CO2排出削減】</b>          ・レジ袋削減等家庭での地球温暖化防止への取組(9,c)  <b>【CO2吸収源整備】</b>          ・多様な担い手による森林づくり(10,d)  <b>【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】</b>  <b>【重要課題】</b>一般廃棄物の減量化・再生利用の推進(11,12,e)</p>
<p><b>&lt;奈良県への向かい風&gt;</b>  <b>【CO2排出削減】</b>          f 太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの固定買取制度の買取価格引き下げ  <b>【生物多様性なら戦略の推進】</b>          g 「生物多様性」認知度が低い(約6割の人が知らない又は詳しくは知らないと回答：H26県民webアンケート)</p>	<p><b>&lt;強みで向かい風を克服する課題&gt;</b>  <b>【生物多様性なら戦略の推進】</b>          生物多様性保全活動の推進(4,5,g)</p>	<p><b>&lt;弱みを踏まえ向かい風に備える課題&gt;</b>  <b>【CO2排出削減】</b>  <b>【重要課題】</b>奈良の省エネ・節電スタイルの推進(9,f)</p>

## 5. 平成26年度の評価を踏まえ、平成28年度に向けて見直した課題、取組

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用</li> <li>・小水力発電の導入・利用</li> <li>・奈良の省エネ・節電スタイルの推進</li> </ul> (戦略1)	<p>「奈良県エネルギービジョン」が平成27年度に終了したことから、これまでの取組の効果検証を踏まえ、新たに平成28年度から3カ年計画とした「第二次奈良県エネルギービジョン」を策定しました。今後は、当該ビジョンに基づき、再生可能エネルギー等の多様なエネルギーの利活用の促進や省エネ・節電に取り組むことで、分散型エネルギーの推進と地域へのエネルギーの安定供給を目指すこととしました。(再生可能エネルギー施設容量:H30年度までにH26年度比1.6倍、電力使用量:H30年度までにH26年度比3.5%低減)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での生活排水対策</li> <li>・地域社会における河川美化活動</li> <li>・一般廃棄物の減量化・再生利用の推進</li> </ul> (戦略1)	<p>「新奈良県環境総合計画」が平成27年度に終了したことから、これまでの取組の効果検証を踏まえ、新たに平成28年度から5カ年計画とした「環境総合計画」を策定しました。当該総合計画において、「大和川きれい化」「奈良らしい景観づくり」「奈良モデルによるごみ減量化」を推進する「きれいに暮らす奈良県スタイル推進プロジェクト」を重点的な取組として位置づけ、多様な主体の連携・協働により、施策推進を図ることとしました。</p>

## 6. それぞれの課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
<b>【CO2排出削減】</b> 太陽光発電の一般家庭・民間施設への導入促進・普及、公共施設への導入・利用(戦略1)	固定価格買取(FIT)制度等を活用した民間太陽光発電事業等の促進、家庭用太陽光パネル及び蓄電池等の設置促進、公共的施設等への導入促進を行います。
<b>【CO2排出削減】</b> 小水力発電等の導入・利用(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農村資源を活用した再生可能エネルギーの調査に対して支援を行います。</li> <li>・小水力、太陽光発電の導入促進、普及啓発を実施します。</li> </ul>
<b>【CO2排出削減】</b> 県営水道の施設を利用した新エネルギー発電(小水力発電)の更なる導入(戦略1)	浄水場、受水地、ポンプ場等を活用した発電施設の可能性を検討し、その電力が有効に利用できる箇所について、小水力発電施設の導入を進めます。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
<b>【河川の水質保持・水量確保】</b> 家庭での生活排水対策の推進(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道の普及促進を図ります。</li> <li>・単独浄化槽から合併浄化槽への転換を促進します。</li> <li>・水質改善課題の見える化の更なる推進を図ります。</li> </ul>
<b>【水辺環境の整備と里川の再生】</b> 地域社会における河川美化活動(戦略1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河川美化活動団体の増加を促進します。</li> <li>・地域団体等による河川美化活動内容の広報周知を促進します。</li> </ul>
<b>【廃棄物排出抑制・循環的利用の促進】</b> 一般廃棄物の減量化・再生利用の促進(戦略1)	奈良モデルによる「ごみ処理の広域化」の取組を継続・発展させ、さらなる「ごみ減量化」に向けて、地域特性に適した3R(リデュース・リユース・リサイクル)等を進めます。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
<b>【CO2排出削減】</b> 奈良の省エネ・節電スタイルの推進(戦略1)	エネルギーを効率的に利用するライフスタイルへの変換を目指す「奈良の省エネ・節電スタイル」を推進します。

